

第2回 六甲山系学習ゾーン検討委員会

議 事 次 第

日時：平成18年12月15日（金）13:30～16:00

場所：神戸国際会館 8階 6号会議室

1. 開 会
2. 第1回委員会での意見概要について (資料①)
3. ヒアリング時にご提供頂いた参考資料について (参考資料編)
4. 第2回委員会での検討内容等について (資料②)
5. 学習テーマ・ストーリーについて (資料③)
6. 学習テーマ・等についての意見交換

○学習テーマについて
○学習のストーリーについて
○学習地点及び施設整備について (資料④)
7. 次回委員会の予定について
8. 閉 会

□配布資料一覧

- 議事次第（次第・委員会名簿・配席図・設立趣意・規約）
- 第2回検討委員会資料（資料①～④）
- 参考資料編（アンケート及びヒアリング意見要旨・各委員からの提供資料）

六甲山系学習ゾーン検討委員会 委員名簿

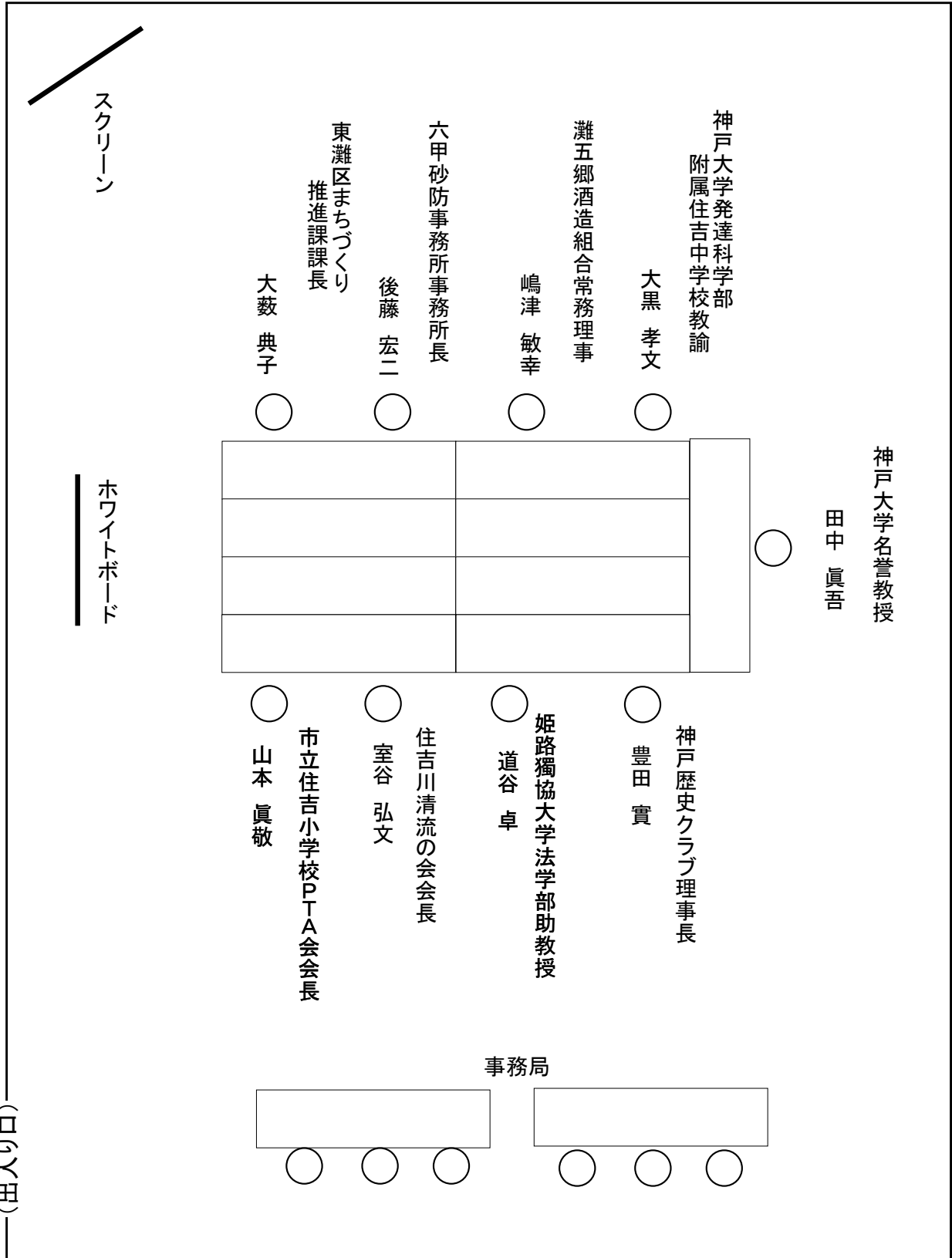
(氏名は敬称略)

氏名	所属・役職等	専門等	備考
田中 眞吾 【委員長】	神戸大学名誉教授	地理学	
おおやぶ 大藪 典子	東灘区まちづくり 推進課課長		
後藤 宏二	六甲砂防事務所事務所長		
しまづ 嶋津 敏幸	灘五郷酒造組合常務理事		
だいこく 大黒 孝文	神戸大学発達科学部附属 住吉中学校教諭		
豊田 實	神戸歴史クラブ理事長		
みちたに 道谷 卓	姫路獨協大学法学部助教授	神戸深江生活文化 史料館研究員	
宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	構造地質学	欠席 (第2回)
むろたに 室谷 弘文	住吉川清流の会会長		
山本 眞敬	市立住吉小学校PTA会会長		

第2回六甲山系学習ゾーン検討委員会 配席図

日 時：平成18年12月15日(金)13:30~16:00

場 所：神戸国際会館 8階 6号会議室



六甲山系学習ゾーン検討委員会 設立趣意

六甲山系は、およそ100万年前に誕生した東西約30km、南北約8kmの連山です。明治初期には、樹木の伐採により山頂までほとんど草木のない山であった六甲山系も、現在では約100年に及ぶ植林などの取り組みにより、多様な動植物の生息する豊かな自然が回復し、都会に隣接する国立公園として、神戸・阪神間の市民にとってかけがえのない自然を提供しています。

豊かな自然を提供してくれている六甲山系ですが、その地形、地質特性などから、山麓に広がる神戸の街に、たびたび大きな土砂災害をもたらしました。近年では、昭和13年、36年、42年の大豪雨、阪神・淡路大震災に伴う土砂災害などにより多くの尊い人命が失われています。

六甲砂防事務所は、昭和13年の大水害を機に設立され、国土の保全と市民の安全確保に向けて、砂防えん堤などの砂防施設の整備やグリーンベルトの整備などを進めてきました。しかし、災害の発生を完全に防ぐことは困難であり、災害発生時の被害を軽減するためには、市民の主体的行動や地域コミュニティの醸成などが重要となります。

この認識の下、警戒避難体制の整備を進めるとともに、住民の砂防事業に対する理解や防災意識の向上を目的として、小学生を中心とした地域住民への出前講座や、ホームページによる事業紹介などの啓発活動にも取り組んできました。今後も、こうした啓発活動を進めていくことが重要であると考えています。

六甲砂防事務所では、これまでの取り組みをさらに前進させるため、六甲山系の砂防施設や六甲山系の成り立ちを示す地層の露頭、過去の災害の痕跡、都市部発展の歴史を示す施設などを活用し、次代を担う児童・生徒等を主対象とした「六甲山系の土砂災害と地域の自然・歴史や文化との関係」を学習する場〈学習ゾーン〉を整備したいと考えています。

本検討委員会は、学習ゾーン整備に向けた下記の項目などについて検討を行い、六甲砂防事務所への提言としてとりまとめることを目的として、学識経験者、郷土史家、教育関係者などにより構成するものです。

- ・学習テーマ..... 学習の着眼点やプログラム、ルート設定などについての検討。
- ・学習地点等..... 学習の教材となる地層の露頭や史跡などの活用方策についての検討。
- ・施設整備..... 案内サインや休憩施設など、学習活動を展開するルートの利便性、魅力を向上させる施設の整備方針についての検討。
- ・維持管理方策... 学習地点等や計画施設の維持管理についての検討。
- ・今後の展開..... 学習ゾーンの利用促進方策や他流域への展開などについての検討。

六甲山系学習ゾーン検討委員会 規約

(名称)

第1条 本会は、「六甲山系学習ゾーン検討委員会」（以下「委員会」という。）と称する。

(設置者)

第2条 委員会は、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所長（以下「事務所長」という。）が設置する。

(目的)

第3条 委員会は、住吉川沿いに整備する「六甲山系の土砂災害と地域の自然・歴史や文化との関係」を学習する場（学習ゾーン）について検討を行い、六甲砂防事務所への提言として取りまとめることを目的とする。

(組織)

第4条 委員の委嘱は事務所長が行う。

2. 委員会は、委員長、委員をもって組織（別表-1）する。なお、必要に応じて、事務所長へ委員の追加を要請することができる。
3. 委員長は、委員の互選によって選出する。
4. 委員長に事故がある時は、委員長があらかじめ指定する委員がその職務を代行する。

(委員会)

第5条 委員会は委員長が召集する。

2. 委員会は、委員総数の過半数の出席をもって成立するものとする。
3. 委員会は、委員以外の専門的な知識を有するものに出席を求めることができる。
4. 委員会は、討議しようとする事項について必要と認める場合は、部会を設置することができる。

(情報公開)

第6条 委員会での議事内容は原則、六甲砂防事務所ホームページ上で公開するものとし、公開する情報及び時期については委員会で定める。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が行うものとする。

2. 事務局は、会議資料の作成、及び説明、議事録の取りまとめを行う。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、委員総数の過半数の同意を得てこれを行うものとする。

(その他)

第9条 本規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会で定める。

(付 則) この規約は、平成18年10月30日より平成19年3月31日まで施行する。

1) 学習テーマの考え方について

- 中学校等における総合学習のような授業などにて、シリーズ的な学習展開ができない場合は、アラカルト・メニューが良いのではないか。
- 従来の理科、社会などの授業の過程にて、現地を見学することは考えられる。

2) 学習素材（地質関係）について

- アカホヤ自体よりも断層が確認できることに価値がある。（五助断層が新しい活断層である証拠など）
- 五助橋断層を確認できる場所として、五助谷川に断層露頭（Loc. 5）があり、こゝも学習地点として案内できれば望ましい。
- ここでは、深度7 kmくらいの五助橋断層が地表に現われている。これ以上深いものは、六甲山系では未確認である。
- また、何度も動いた痕跡が確認でき、六甲山の造山運動を知ることができる。太平洋プレートなどは有名であるが、インド・プレートの動きがユーラシア・プレートにつながり、六甲山の五助橋断層に関係しているなど、グローバルな視点も理解できると良い。
- 水害や土砂災害も重要であるが、震災も記憶に新しく、防災上も重要である。
（震災→振動→山地崩壊→被害につながっている）